産地パワーアップ事業の取組事例　（滋賀県）

取組の概要

取組の概要　：てん茶加工への体制整備
計画作成主体：甲賀市農業再生協議会
対象品目　　：茶（産地面積：45.5ha）
主な取組主体：農事組合法人グリーンティ土山
成果目標　　：10a当たり販売額の10%以上の増加
助成金の活用：農産物処理加工施設整備
状況　　（てん茶加工施設）
てん茶加工場の新設により委託加工から自社加工へ移行し販売額の増加を図る。

ポイント

需要が多く、揉み茶（煎茶等）より高単価での取引が見込まれる「てん茶」の生産を増やすことに取り組む。
てん茶加工施設の整備による販売単価向上により、販売額10%以上の増加を目指す。

地区の概要

産地の現状と目標

〈現状:H28年度〉

作付面積：45.5ha（出荷数量：111t）
単位面積あたり販売額：205千円/10a

〈目標:H31年度〉

作付面積：50.0ha（出荷数量：140t）
単位面積あたり販売額：309千円/10a

推進体制

地域の関係者（甲賀市、甲賀農業協同組合、県甲賀農業農村振興事務所等）が一体となり、事業を推進。

地域における独自の取組

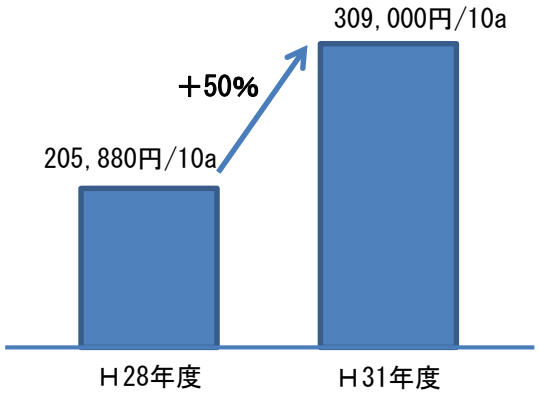
〈主な取組〉

〇これまで委託加工や生葉販売に回していたてん茶を自社で荒茶まで加工し、販売額を増加させる。
〇せん茶に続きてん茶でも、JGAP認証の取得を計画している。

〈県・市町村単独事業〉

輸出先に対応した病害虫防除技術を確立するため、新たな消費者ニーズの創出で「近江の茶」産地改革支援事業（県単独事業）を活用し実証ほによる検証を実施している。

事業効果

〇　実需者からの需要が多く、せん茶より高値販売が見込まれるてん茶の生産を増やすことで産地として茶の販売額の増加を実現する。
〇　周辺の農家も、生葉をｸﾞﾘｰﾝﾃｨ土山へと出荷することにより、販売額および所得を増加させ、経営の安定化を図る。

～茶の販売額～